

神奈川県社会人ダンス連盟

Anniversary
30
th

30周年記念誌

日時：2004年8月29日(日)Pm4:30~8:30
会場：新横浜プリンスホテル



目次

THE CONTENTS

ご挨拶	1~8
アマチュアダンス界創立期の歴史	9~17
歴代役員	18~22
祝賀パーティー写真	23
座談会:創立30周年を迎えて	24~37
写真でみる30年の思い出	38~50
あとがき	51

Anniversary

ご挨拶

th

社会人ダンス連盟30年を振り返って

神奈川県ダンススポーツ連盟相談役
神奈川県社会人ダンス連盟名誉会長
川崎市ダンススポーツ連盟相談役



昭和50年4月に全国初の都道府県組織である、神奈川県社会人ダンス連盟を発足させた後、10年を掛けて昭和60年4月に関東圏内を纏めて社会人ダンス連盟(KSDR)の創立にこぎつける事が出来ました。同時にこれを全国組織に発展させることを期して、日本体育協会の9ブロックに合わせた全国社会人ダンス連盟(NSDR)を発足後(KSDR)が兼任して、当時のアマチュアダンス活動の大本山であるJADAに所属して、『学連盟』『LACD』と共に日本のアマダンスの発展に努力して来ましたが、日競連(プロの競技団体)の影響を強く受けている競技主体の団体の運営状況と社会人のごとく、プロとの関係が薄く、行政や地域の公共施設を使っただけの、生涯スポーツとして仲間の連帯性を高める普及活動を主体とした目標や内容の違いと併せて、JADA内部の混乱(会長の施設秘書や偽造印鑑の製作や役員総辞職)等々から、別頁に記した状況(是非皆様に必読して欲しい)”今だから言える当時の裏話”の実態が生まれた次第です。

その様な困難と苦勞を切り抜けてこそ本日の『社会人ダンス連盟』創立30周年記念祝賀会に繋がっていると、肝に銘じて載きたいと念願致します。

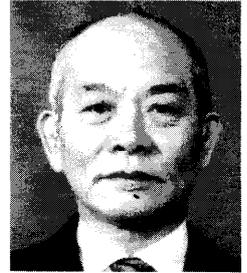
今この文章を纏めていて、組織活動に重複しますが約50年をかけた者として誠に思いひとしおで有ると共に感無量で有りますが、各団体の今後の発展と会員皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

平成16年8月19日

Anniversary

ご挨拶
30
th

30周年を迎えて



神奈川県社会人ダンス連盟
30周年記念祝賀会実行委員長
浅野 晟二

神奈川県社会人ダンス連盟30周年記念祝賀会にお忙しいなかをご参加されたご来賓の皆様、並びに会員の皆様に心より御礼申し上げます。

川崎市社会人ダンス連盟の設立から県内への地域を中心としたサークル活動へと発展し今日の神奈川県社会人ダンス連盟となりました。さらに神奈川県、東京都を軸に関東社会人ダンス連盟から日本社会人ダンス連盟へと前進してきました。

その根幹は「地域社会を中心としてダンスを人と人との交流の場、地域文化活動の一助」として展開されてきました。さらにJADAへの加盟から「スポーツ」として「位置付け」されてきました。

JADAからJDSFへの課程のなかで「加盟団体の組織統合」が必要となり、NSDRとLACDは解散し各県レベルで組織統合への道を歩みはじめました。NSDRは解散しましたがLACDは名称こそ「Aリーグ」と変更しましたが実態は変わらずに今日まできています。その状況のなかで全国各県は組織統合に向けて努力し各県各様の形態で実現してきています。

神奈川県はJDSFの指示に従い「完全な統合を目指して当面は神奈川県社会人ダンス連盟と神奈川ダンススポーツクラブ」による団体間組織をもって神奈川県ダンススポーツ連盟を立ち上げました。

組織統合に向けて双方は一年間をかけて「組織決定に関しては双方二分の一の権利、役員の数、会長は二年で組織間交代」という合意のもとで活動が開始されました。

神奈川県社会人ダンス連盟としては「解散は決定。時期については神奈川DSCが解散するかもしくは兆しが確定したときに解散総会をする」という決定のもとで今日まできています。更に神奈川県社会人ダンス連盟の規約にある「各市区町村レベルでの支部確立」が実現するかそれに準ずる状況になったとき。と確認しています。全国的には「Aリーグ」も解散への道を歩み始め残された道は「市区町村に支部を確立」するのみとなりました。この点も「相模原市支部」の設立から県内においてはこれをベースに急速に支部立ち上げの活動が展開されています。現在は「神奈川県体育協会への正式加盟」が支部設立のメインになっていますがこれらの活動を通して「支部」の確立と「ダンスの普及」を我々は推進していかねばなりません。

神奈川県ダンススポーツ連盟の組織統合も平坦な道筋ではなく2001年5月には分裂するかという事態がありました。我々社会人ダンス連盟より文書通告をし神奈川

DSC よりの文書回答をもって危機を回避し双方で努力することが確認されました。しかし2003年になりJDSFは「Aリーグ」(旧LACD)を解散させるどころか神奈川県においては「加盟団体」と格上げし「支部」扱いとなりました。しかも従来の二分の一の権利五分の一の義務という「Aリーグ」に都合のよい組織構造に改悪してきました。また、「体育協会加盟」にむけてなりふりかまわぬ「支部」立ち上げもおこなわれようとしています。

JDSFの「社団法人格取得」により組織構造は従来と大きく変化いたしました。従来の三団体の合議制はなくなり一部の役員が重要事項の決定をおこない権力化してきています。そのことをうけて本年のJDSFの総会で問題になりました。当面は試行錯誤や朝令暮改があるとは思いますが我々は県内ダンス愛好者への働きかけをおこない、組織拡大と名目だけの支部ではなくきちんとした支部設立にむけて神奈川県ダンススポーツ連盟への責任を果たしていかなければなりません。

一言に30周年といっても大変な苦勞があったと思います。歴代の会長、役員、サークル会長と多くの会員の皆様のたゆみない努力の結果であろうと感謝いたします。

これからも神奈川県社会人ダンス連盟の目的である

- * 組織統合
- * 県内市区町村支部設立
- * 神奈川県体育協会正式加盟
- * 県内ダンス愛好者の組織化

以上の目的達成のために神奈川県ダンススポーツ連盟の強化拡大のために協力をして目的達成への道筋の兆しが明らかになった時点で総会を開催し「解散」の手続きをしたいと思っています。

本日、30周年記念祝賀会を開催するにあたり支部役員、会員並びに名誉会長、相談役の皆様のご協力とご鞭撻に心より感謝いたします。と同時にご参加された皆様と30周年記念祝賀会をおおいに盛り上げ楽しく意義ある一日となることをお願い致します。

ありがとうございました。

Anniversary

ご挨拶

30th

30周年を迎えて



神奈川県社会人ダンス連盟
副会長 山崎 和雄

本日は、創立30周年記念祝賀会に多数の方々のご参加を頂きまして有難うございます。鈴木 清名誉会長をはじめ諸先輩の皆様方、本日は有難うございます。

いま、2004年、アテネオリンピックに沸いています。ダンスが公開競技となり、そして正式種目としてスポーツの祭典に参加をした時、もうひとつの生涯ダンスが栄えることと思います。

私たち神奈川県社会人ダンス連盟は、諸先輩の方々のご努力と研鑽があって、今日開花された賜物と確信しております。

競技ダンスを目指す人、そして生涯ダンス、またからだの不自由な方々ともダンスを通して交流を深めて、健康増進に邁進したいと思います。

いま、JDSFのもとに各県がいかにダンス愛好者を育成しようかと思案中と聞いております。

指導員の育成や、またダンススポーツ大会の種目内容を検討して、レディース戦や一般市民戦など等、今後アイデアを取り入れて楽しいダンスの普及活動を推進したいですネ。

そして、ダンスが地域の愛好者に浸透していきますよう努力していきましょう。

本日は、30周年記念祝賀会の開催に際して、支部役員をはじめ会員の皆様のご協力に感謝を申し上げます。

お祝いの言葉

川崎市ダンススポーツ連盟
会長 安田輝子



神奈川県社会人ダンス連盟が、川崎市川崎区にあります稲毛神社斜め前の読売ホールで創立発会式を行ってから“30年”とか。30周年記念の日を迎えられ誠にめでたう御座います。

また川崎市連盟も創立式典を行ったそうで、同じく30周年を迎えた事になり感無量でございます。

鈴木清初代会長を始めとし、歴代会長のお力によりダンスも一般大衆化し現在を迎えられたのだと感謝しております。ことに川崎は、会長OB3名現副会長等多くの先輩方々の熱意により社会人連盟の精神が継承され、現在のダンス界の基礎になっていると、いつも自負しております。

また神奈川県連盟と川崎市連盟が組織として、日本のダンス発祥の地である事も名誉に感じご同慶の至りでございます。

プロ団体の傘下にあったLACDと、学連と社会人とで運営してきたJADAとの統合【JD SF】日体協加盟社団法人化等々、目まぐるしく変わっていくダンス界、この時期に会長職に就いていただいている浅野晟二会長には、山崎和雄副会長、今年惜しくも亡くなりました柴田登雄副会長と共に大変なお苦勞をおかけしていると思います。

競技ダンスと生涯ダンスの両車輪でと前進しながらも忘れられがちな生涯ダンス、楽しみのダンスを無くさないためにも、私達は社会人として大いに力を発揮しなければならないと考えています。

川崎は現在26サークル、会員500名、選手350名程の規模です。体育協会にも評議員を送り他の会員ともダンスを持って交流をし、地域仲間とも仲良く、小さいですが纏まった団体だと思います。

私を始め、役員層が浅いもの達为中心の役員体制ですので、何時も相談役にお力添えをいただき感謝しております。

私は役員層は浅いのですが、教文研究会にいた関係上大会役員に引っ張り出され、司会をやらせていただいております。ヒートって何かわからないまま、吉田典昭氏の優しいご指導のもと川崎大会は随分やらせていただきました。関東社会人第1回大会（戸田市体育館）にも佐々木勇美氏に引っ張り出され、現JD SFの司会者として定評のある千葉の栗田和夫氏のステマネの下勉強させていただきました。

また神奈川県社会人20周年記念では、川崎市代表としてデモを踊らせていただき、鈴木清氏より“ヤッチャン”と、掛け声をいただいたのを昨日のここのように思い出しております。鈴木清氏のような偉い人が何で、声をかけて下さったのか、リーダ共々首をかしげながら、嬉しくタンゴを踊らせていただきました。懐かしい思い出です。

今後共引き続いて頑張りますので皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

最後に皆様のご健勝とご多幸を心より祈念してお祝いの言葉といたします。

Anniversary

ご挨拶

th

創立30周年によせて



相模ダンススポーツ連盟
会長 藤村 春夫

神奈川県社会人ダンス連盟初代会長（現 名誉会長）鈴木清氏のアマチュアダンス界組織化という構想と多田義行氏（相模アマチュアダンス連合第2代目会長）との出会いが、相模アマチュアダンス連合（現 相模ダンススポーツ連盟）創立のきっかけとなり、相模が神奈川県社会人ダンス連盟に加盟して大会会場の提供などをして連盟に貢献していたと聞いています。当時私は、サークルの役員として相模アマチュアダンス連合加盟へのアプローチを受け創立2年目の年に加盟し、活動を開始しました。

相模アマチュアダンス連合（現 相模ダンススポーツ連盟）が神奈川県社会人ダンス連盟の会長に多田義行氏、浅野晟二氏の2名を送り出しました。

私も平成4（1992）年に神奈川県社会人ダンス連盟の役員となり、この創立30周年を迎えることが出来たのも歴代役員及び会員の皆様による努力の結果だと感謝致しております。



Anniversary

ご挨拶
30th

30周年記念に想う



湘南ダンススポーツ連盟
八津博信

本日は、神奈川県社会人ダンス連盟の設立30周年を迎えると言うダンス界においては歴史に残るすばらしい一日になることと思います。

これもダンスの発展に情熱を傾けた先輩の努力の賜でございます。関係者、ダンスファンの一人として感謝を申しあげずにはられません。

毎週日曜日には各地で盛んに競技会が行われていますがこのランキング戦、実は、神奈川県社会人の先輩のアイデアから生まれたものと聞いています。現在のJDSF発展の基礎を築いたのはこのランキング戦の生みの親である神奈川県社会人ダンス連盟であると申しても過言ではないと思います。

従って、神奈川県はこんにちのJDSFランキング競技会の発祥の地でもあるわけです。

これからの、社会人ダンス連盟はJDSF会員よりはるかに多い一般ダンス愛好家の方々に目を向け生涯スポーツとして先輩が築いてきたこのダンススポーツをより発展させ新たに多くの愛好家の会員を募り、皆さんが楽しめる新しい舞台を作っていきたいものです。

本日、ご出席された皆様と共にこの30周年記念祝賀会を大いに楽しみ祝いたいと思います。

Anniversary

ご挨拶

th

30周年にあたり横浜支部の展望



横浜市ダンススポーツ連盟
会長 吉岡昇治

16年7月10日現在	サークル数	30
	横浜支部会員数	839
	選手登録数	791

平成2年の発足以来14年目に入っております。

JADAの時代から現JDSFへ、アマチュア団体の統合、発展の動きの中で、加盟団体としての責務を自覚して活動を続けて来ましたが。

ダンススポーツ競技と普及を両輪として活動を続け、年間の行事としては横浜市のイメージアップを願い、ベイサイド杯争奪戦大会と赤い靴杯大会を定着させ、横浜市連盟の2大大会と位置づけ、順調に推移しております。

普及と親睦については各加盟サークルがダンスパーティーや親睦活動を活発に行っており、市連盟としては、各人が身近なサークル等で活動する様子を見守ることで経過してきましたが、今後は競技会以外の催しにも積極的に企画実行を計り、ダンススポーツの普及活動を活性化させて行く考えでおります。

その第1歩として2003年10月には横浜文化体育館において、第1回ミナトヨコハマ大舞踏会を成功させており、横浜市連盟の年間行事に加えて定着させたいと思っております。

その他神奈川県連盟の協力のもとで、横浜市体育協会主催ダンスフェスティバルに毎年大きく貢献し評価されております。

横浜支部も、或る期間の揺籃期と思われるときを乗り越え連盟行事や上部団体への協力体制も会員の理解度を一層高めつつ、今後への期待も非常に明るいものと断言することが出来る様になりました。

従来 of 県内4支部に相模原市を加え、その他各行政区加盟も一挙に実を結ぶ期待も高まっており、横浜市連盟も義務と責任を果たす毅然とした組織活動を目指すとともに、和気藹々の団体となって行くつもりでおります。

アマチュアダンス界創立期の歴史

(今だから言える当時の裏話)



まえがき

今から30年前の1975年（S50）4月に数少ない各地域のダンス愛好者を探し尋ねて、ダンスサークルを造り、そのサークルを町毎に纏め市連盟に、更には県社会人ダンス連盟として発足し、国内中『ゼロ』のダンス団体を最初の市県単位のダンス組織として設立を図ったことを、感無量の思いが致しています。その間ご協力戴いた各関係者に改めて厚くお礼を申し上げる次第で有ります。

神奈川県連盟と川崎市連盟創立のいきさつと内容は、共に1994年（H6）に発行した創立20周年記念誌（県は…あゆみ。市は…Step By Step。）に初代会長の随想として数ページに亘り記載いたしました。

従って本誌では、創立期からアマチュアダンス協会（JADA）の組織造りに参画し（設立準備期間を含めると30数余年）、名称もJADAからJDSFに変更しその間紆余曲折が有りましたがその後歴代役員により、連盟規約に掲げたICAD及び日本体育協会に加盟し、併せて法人格の取得を果たし着々成果を挙げて、最大の目標と目指したオリンピックの参加も決して夢ではない情勢を築き挙げ誠に喜ばしい限りでご同慶の至りで有ります。

当然ながら創立当時の役員も関係者も殆ど変わり、先に参列者約1,200名を迎えて新高輪ホテルで盛大に行われた、JDSF法人設立・創立25周年祝賀会に配布された“大舞踏会”誌に記載されている功労表彰者9名中5人は既に逝去され、人の変転に今更ながら驚いている次第です。

同じく当日別に配布された“25周年誌”は、JDSF前史としPart1～Part3に分けて1.にはアマチュアダンス界の先駆者＝大学ダンス部。2.にはプロ組織からの旅立ち＝アマチュア選手会。3.にはアマチュア協会設立の機運＝社会人登場。が記載され、JADA誕生とアマチュア活動草創期の様子が正面から見た歴史として詳細に述べられています。

しかし創立時の努力や苦勞の歴史を知る人も先にのべた功労表彰者のごとく少なくなり、資料の散逸もありこれまで表面に出ていない『裏話』『今だから言える話し』こそ後世に遺す陰の歴史として、表裏の歴史として遺しておくべきだと思っています。私も功労表彰を受けた1人として年令も81歳になり、10年来の狭心症に併せて昨年より心臓大動脈瘤が発見され手術も不可能と宣告を受けていますので余命も少なくなり、字数が多少多くなることを承知で慌てて本誌に記述した次第です。

平成16年5月11日

鈴木 清

アマチュアダンス界創立期の歴史

th

①アマチュア選手と日競連

1) '72年(S47)頃のアマ選手とOBの位置とプロ組織の概要

当時アマチュアの選手はプロのダンス団体である日本競技ダンス連盟('50年(S25)5月発足)に所属し、東部など5総局で構成され更にNATD、JATDとに分かれた舞踏教師協会があって、各教師及び教室は所属する師弟関係で構成する技術研究団体にまとめ、技術の向上と自己団体の勢力拡大を期して学連を含むアマ選手の獲得を図っていた。

2) 現役アマ選手と、アマOBに対するプロ側の扱い

アマ現役選手は完全に各教室の傘下にあり、教師より技術供与を受けと共にコンペ出場も教室経由で行い、プロ教師の審査成績によりD～SA級を与えられ、アマとしての自己主張や自主性や行動もすべて制限されていた。尚驚いた事にはICAD(国際アマチュア評議会→現在のIDSF、国際ダンススポーツ連盟)も日競連が加盟していた状態で、国内も国外にも全く発言の余地すら無く、現役選手がこのような状況で、ましてや選手を引退したOBは日競連からはまったく相手にされず、長年生活を犠牲にして時間と金銭をかけて取得した技術も、プロに転向しない限り生かす道はなく、ただ自分の趣味として終わっていた。

②世界のアマダンス界の動向

1) ドイツとイギリスの情況

この時代、世界のアマダンスでは'72年(S47)に西独でオリンピック、ミュンヘン大会が開催され、エキジビションであるがダンスが踊られ世界的に関心を集めました。また西独ではアマ組織が完全に独立し、スポンサーが付いて競技会をオーガナイズしていました。

ダンスの本場イギリスでは将来社会人になる子供の、マナー習得の必須教養科目として低学年生に採用されていました。当時イギリスのアマ組織は出来ていませんが学生舞踏連盟が発足したとのニュースが伝わって来ていました。

2) 共産圏(ロシアを中心とした)ダンス界の動向

ロシアの様子は鉄のカーテンと言われ閉ざされた国ですが、第22回オリンピックの開催が決まったことにより、ソビエトのダンス実態把握のためにアマ選手の上野秀行氏をソ連に派遣した、その報告書によるとバレエ、民族舞踊、の古典的舞踊等が伝統的に根づいていて、西欧からスポーツとして輸入されたダンスにも偏見が全くなく、それどころか、ダンス学校が開設されて教育の一環として取り上げられ、青少年や労働者のサークルが出来て、工場対抗戦などが盛んに開催されている。'72年の『ソビエトグラフ』によれば『タリン市で国際競技大会』が開催され、モスクワ、レニエグランド、ウィリニウスなどの各市の代表選手の他に、ハンガリー、ポーランド、東ドイツ東側各国の選手が参加する程ダンスが盛んであると報告を受けている。尚それ以前'70年にリトアニア共和国で開催された世界選手権大会に、日本から西部総局アマ選手の岩田浩氏(後にSA級昇格)が出場(成績は不明)しています。

③国内アマチュアダンス組織造りの胎動

1) '72年(S47)頃のアマ全国選手会(LACD→現Aリーグ)の動向

アマの国内外の情勢から心ある20数名の人々が、プロの全日本ダンス選手権大会の前日に有楽町の“おりん”に集まり、アマの置かれている状況を分析して、アマ全国選手会(仮称)を発足すべく『結成準備会』をつくり、委員長 野村直人(東)、副委員長 岩田浩(西)、秋田祈雄(中)、近藤幸人(北)、事務局長 児玉直治(東)を選出しスローガンを次の通り決めた、《社会人、学生、総てを結集したアマ協会を設立して、体育協会、及びオリンピックの参加を目指そう》。以降日競連に合わせた『アマの総局』造りを目指し、全国会議をS47年7月26日に名古屋で開催したが、西部、中部から組織造りには東部の指導性と全国に示す模範が必要であると言われ、東部アマ選手会の発足を強く要請されるに至った。

2) 東部アマ選手会設立と全国アマ選手会造りの情況

その後山口繁雄理事長の尽力で、第1回東部アマ選手会の総会をS48年1月、第2回全国会議をS48年6月に銀座スターダストに20数名の選手とOBを集めて開催したが、西部の治家委員から、『アマは一切のプロと手を切り各地の教育委員会の理解と承認をえて、地域スポーツ団体として公共施設の公民館や体育館等を使って、独自の普及活動を行いながら全国組織を目指せ』と強力な発言があり、これに対して東部は目的は同じで有るが同調せず、むしろICAD加盟を優先させるべきだとして会議は紛糾した。

山口、野村、岩田各氏の調停も実らず、以後西部は独自のアマ連盟を結成したが、1年後には治家氏を連盟に残し他の人は、西部選手会の再結集を図った。九州、北海道はプロの狭量に左右され全然進展せず。中部もアマ選手会結成の申請をプロ総局に再三拒み続けられている実態で有った。

3) 全日本学生競技ダンス連盟

S23年に全日本学生舞踏連盟を結成し、S37年には現在の体制が確立していて、アマダンス選手会が一体活動を申し入れしたが、プロの強い支配や影響を受けている団体との一体化を学生独自の自主活動の精神が守れないとして拒まれた。

④日本アマ舞踏連盟(仮称)設立準備会の呼び掛け(S48年～S50年)

1) 一般愛好者、学連OB、有力活動者探しと、社会人都県組織の設立

ダンスのオールアマチュア結集の組織造りを目指す前述③の東部アマチュア選手会有志による、知人やツテを頼りに呼び掛けがあり、20数名の有志がフジテレビの会議室に集まり、連盟結成のテーブルについて第一歩を踏み出した。

アマ選手会の呼び掛けですから、知人を通じた多少の手掛かりが有っても一般愛好者や活動家の所在を知る由も無く、教室や仲間の情報を頼りの呼び掛けが中心で東京都や神奈川県に偏っていた。千葉県は沢田直治氏が呼び掛け人になったが、半年程遅れて参加した。尚、学連からもOBを含め2～

3名が集合し三団体が揃った。

2) 三団体からの出席者

1. 学連…連盟理事長の国保恵昭氏（慶応OB）の外に現役学生が2～3名交替で出席していたが4年生のため1年間で交替し氏名不詳。
2. アマ選手会…野1）ダンス愛好者層を変えるサークル造り翼、沢田直治、永瀬春来、田端勝彦、森木行徳、根元俊英（節子）の諸氏で会議により他に1～2名臨時出席あるも氏名の記録無し。
3. 社会人…野村志郎、山口繁雄（自ら社会人として参加）、鈴木清、崎山新太郎、鶴岡康雄、東條三郎、関根栄、（松本明雄、千葉県…遅れて参加）。

3) 地域協会造り（都、県社会人ダンス団体）

三者の会議で《日本アマ舞踏連盟（仮称）》を造ることは確認したが、学連の組織は完成され以前より自主的活動を行っている。アマ選手会も東部に組織化が一応出来て今後は内部の充実を図る段階にある。問題は組織『ゼロ』である社会人の組織化である、結局は出席の社会人各位が自分の地域に戻り組織造りを担当することになった。

⑤社会人の組織造り（S49年～S52年）

1) ダンス愛好者層を変えるサークル造り

アマ選手会の呼び掛けで参集し、確かにアマダンス界発展の必要性は感じたが、アマ選手会として社会人に望んだのは、1. 日競連に対する自己の立場の強化に社会人の応援を得ること、2. 世間から認知されていないダンスに対する偏見の払拭にあったと思われる。事実社会人は世間の認知を得る行政やマスコミの働きかけ、一般ダンス愛好者の普及開拓及び県市教育委員会、体育協会加盟の原動力になって活動した。

当時教室に通うダンス愛好者は、（アマ選手も）一部を除いて生活に余裕のあるレベルの高い階級に属する人達で、財産家、医師、弁護士、会社役員や中小企業商店主の本人と夫人並びにその子息に限られた人々で有ったといえます。

社会人の組織造りは、先づダンスの大衆化を図り現状の愛好者層の変革を期して、一般市民が気楽にしかも安価に参加できるサークル造りの小集団活動で有ります。

出発点は関東地区の一部でも、やがて枯れた芦原に火がついたように全国的に発展するであろうと期待していた。

2) 社会人団体は地域協会としての扱い

社会人の組織造りは東京都、神奈川県が同時スタートし、少し遅れて千葉県が加わって3都県から始まりましたが、神奈川県はプロからの苦情が森木氏（当時県アマ支部長）を通じて再三有ったが'75年（S50）4月に国内初の県単位組織結成をさせた。東京都は既成のプロ、アマ混成の『東京都連』や銀座を中心に活動していた“星流会”等の妨害が有り'77年（S52）2月に発足できた。千葉県は金城氏→松本氏の努力にも拘らず仲々纏まらず、千葉市、流山市、市川市、市原市の一部が纏まった時点で合流した。

社会人の関東3都県が纏まったが、日本アマ連盟の加入はあくまで全国組織が原則なので、日本社会人ダンス連盟（NSDR）及び関東社会人ダンス連盟（KSDR）'85（S60）全国組織を造るまで

は、本加盟ではなく単なる地域友誼団体の扱いであった。

⑥日本アマチュアダンス協会の名称

1) 名称の由来

体育協会加盟団体や他のスポーツ団体には〇〇協会、△△連盟の名称を使っている団体が多いが統一されたものではなく、日本アマチュア舞踏連盟（仮称）で約2年半を過ごして来たが、略称を『アマ協』と名のっていて『尼教』と間違えられた事もあり、段々設立が近づくとつれ、正式名称問題が議題になり提案は『日本アマチュアダンス連盟』であったが、将来体育協会加盟を目指す団体として、協会名称の先取りをした『日本アマチュアダンス協会』（JADA）と決定し、'99年（H11）2月JDSFの変更まで続いた。

⑦プロとの定例会議

1) ジョイント・コミッティー

プロとアマの連絡、情報（問題により交渉）交換の場として、互いに担当者を出して定期的に（次第に不定期になった）ジョイント・コミッティー会議を開催した。最初は顔合わせの意味もあってプロ側の出席者は、藤村造作、原 潔、玉井 清、須藤京一、榊岡 肇、篠田 学、齋野友次郎、の諸氏で当時の日競連大幹部の方々に現在故人になられた方も何人かいます（但しその後藤村、原の両氏は出席なし）。

アマ出席者は、アマ選手側では、野村直人、永瀬春来の両氏で仲野、根本、森木、田端の各氏は散発的出席であった。社会人側は野村志郎、山口繁雄、鈴木 清、関根 栄、東条三郎の諸氏で出席は良かった。学連は国保恵昭氏（慶応OB）が出席した。

2) 会議の議題と情況

当初はS48年11月にアマ選手側から日競連に要望として提出していた、1. 登録料の値下げの件、2. ノービス選手の登録制度の確立、3. 日競連内にアマ機材庫の設置、4. アマ審査制度の確立、5. ノービス開催権の確立、6. デモ禁止の緩和。等々の回答引き出しから始まり徐々にICAD加入権の引渡、選手権（日本アマチュアダンスチャンピオンシップス）大会の開催承認、等々ダンスの根幹に拘る議題に発展していった。

質問は専らアマ選手会、意見は社会人側の発言が多く、特にエキサイトしてアマ選手が加担して発言するとプロ側から大きな声で“〇〇君”と一喝して沈黙させる始末で、決して対等な立場の会議ではなく選手という弱さに付け入った状態であった。

この様な状態が1年程続いた時点で、詳細を文章化し協定書として纏めることになり、当時のプロとアマの“力”関係を遺憾なく示した内容の協定を'80年（S55）10月15日に、藤村造作、野村志郎、両会長名で締結したが、2項の協定文章に有る通り3年を経過したJADAだがプロ評価は薄く、アマ世界選手権派遣認定権は今後どの様になるか判らぬ団体よりICADの加盟を先づ無難なLACDに委譲すると言われた事を覚えている。

3) 協定書の内容

1. (アマチュア登録選手の移管)

日本競技ダンス連盟はアマチュア登録選手をできるだけ速やかに日本アマチュアダンス協会の加盟団体であるLACDに移管する。

2. (ICADの加盟権の委譲)

日本競技ダンス連盟は昭和55年10月31日までにICADを脱退し、かわってLCDDが加盟する。

3. (国際競技会への派遣代表選手の決定)

LACDは日本競技ダンス連盟主催の全日本選手権を、国際的な競技会に派遣するアマチュア代表選手決定戦とする。

4. (アマ協会主催の選手権及びオープン競技会)

JADAが選手権及びオープン競技会を行う場合は、個別に日本競技ダンス連盟と協議し合意のうえで開催する。

5. (講習会)

JADAはアマチュア精神にのっとり、営利を目的とするか或は営利的と見なされる講習が参加の団体、個人により行われぬよう厳格に取り締まる。

6. (メタルテスト)

JADAはメタルテストに類したものは行わない。

7. (競技規定)

すべての選手権及び競技会に於ける競技規定は、現行のルールをもとに両者が話し合って決定する。

8. (アマチュア・ジャッジ)

アマチュア現役選手のジャッジは認めない、アマチュアのジャッジは今後引き続いて話し合っ
て両者間で決定する。

9. (アマのデモンストレーション)

アマチュアのデモンストレーションに関してはジョイントコミッティでの合意のもとにJADA
が規定をつくり施行する。

10. (ジョイントコミッティ)

両者間の諸問題及び本協定に規定なき事項を円満に解決し、運営してゆくためにジョイントコ
ミッティ(代表者)を定期的に開催し、これを協議する。

11. (協定の改廃)

この協定は両者の合意により改定もしくは破棄することが出来る。当事者の一方が地方に申し
入れた場合は、これに応じ信義誠実の原則にのっとり協議するものとする。

では、本加盟ではなく単なる地域友誼団体の扱いであった。

⑧ 会長不信任とJADA機能の停止及び 代表者会議の設置

1) 会長私設秘書S氏の出現

’83年(S58)4月頃のJADA理事会や関東社会人連盟結成準備会(後述、全国組織を目指して造りつつある準備会)の席上、野村志郎会長の隣に座っている人物が居て、盛んに発言をしていた。

誰も知らぬ人なので会長に質すと、直接本人が『会長の私設秘書』と答え、更にLADAの会員である限り会議出席は自由であると言う、各理事から秘書なら鞆もちであるから会議室の入場は認めないが、会員の傍聴ならと認める事にした。その後会議、集会、大会に会長と共に出席し、会長は常に無言だが会長に替わって発言が多くなってきた。

それどころか、外部(日体協、新聞社など)との接触や、雑誌にJADA広告を無断掲載したり、茅場町にJADA事務所の開設、会長印の作成(正式印鑑は事務局長が保管)、役員又は団体の警察、税務署への告発をして本人の邪魔になる者の排除を策してきた。

この行為にたいして理事、評議員は合同会議を開催、会議は’84年(S59)3月20日東京グリーンホテルで10時より7時間に互り行われ、S氏の行動を黙認してきた会長の責任を追及し、3団体が共に『会長を信頼できず』として絶縁する事となった。

JADAは当分の間機能を一時停止して休会とし、3団体が各3名の代表者を出し9名の代表者会議を設置して一時的運営を任せることにした。

2) 代表者会議

メンバーは、(学)小沢壽人、菊地健男、西谷修、(L)田中章男、菅野哲郎、根元節子、(社)吉田典明、内山雅允、大塚誠一。9名で’84年(S59)3月~12月迄就任し、主として財産管理(含む印鑑)、継続事業の処理、渉外(三笠宮家、文部省、体育協会)の訪問説明、監事の選任を行い、次期JADAの理事選出と理事会の招集を行って解散した。

⑨ アマ審査員の不信とビジョン会議

1) 審査員不信の原因と内容

当時JADAに公認審査員は無く制度も無かった、事務局長に依頼するとLACDの中から適任者の派遣をし、社会人大会の審査を行っていた。

以前より社会人役員及び選手の水面下では苦情と不満があって問題視されていたが、第17回東京都民スポーツダンス大会(平成元年5月14日)及び同年4月開催の東京都多摩大会に際して、LACD派遣の審査員では問題があり反対であると、実行委員会及び東京都アマダンス協会理事会で決定した、又関東地区の社会人団体も同調した。

不信の原因は、①毎回同じ審査員の派遣でNとT。()夫妻の4名に+1名編成で、特にN夫妻は自分の家に車庫を改造したレッスン場を作り自身の練習に使いながら、社会人の競技会に出場者を数組コーチしている。②誰が判断してもコーチを受けているカップルに甘い点が付いている。③休憩時間に会場の隅でコーチしている。④Nはチェック数の不足があってもその数で良いと頑張っている。

⑤審査員の中にはチェックでUPする表示を○で記す様な者もいる。

等々日常から多くの不満あり、遂に東京都大会と多摩大会開催時点で爆発しLACD審査員の拒否に発展して、両大会共プロ審査員の活用となった。

2) ビジョン委員会の開催

メンバーは、山口会長、清水、仲野両副会長、鈴木NSDR会長、永瀬事務局長…以上5名で平成元年4月10日、JADA新宿事務所で開催し次の結論に達した。

結論

- ①多摩大会は時間的余裕も無いので公認競技として認める、但しLACDは反対であり協力はしない。
- ②今後4月迄を目標にビジョン委員会を通じて、3者が納得できるJADA審判規程を制定する。③従って東京都大会はこの制度に則った運営をおこなう。

ビジョン特別委員、山口、清水、仲野、永瀬、田端、鈴木、吉田、と決定。

JADA審判規程(案)は平成元年4月18日に出来たが、東京都は審判員制度の精神は尊重するが(案)の段階であり、制度の確立まではアマ、プロの選定は大会主催者の判断に任せるべきだとしてプロ審判員により大会を行った。

⑩日本社会人ダンス連盟(NSDR)の誕生

1) 社会人団体設立

地域団体として参加した社会人は'75年(S50)にLACDや学連OBと共にJADA(現JDSF)を設立し、ダンスの普及活動と組織拡大並びに充実を期して賛同する国内各地の行動力と統率力の有る活動家を探し、発足は'85年(S60)になり10年間掛かりで誕生させた。

2) 社会人ダンス団体の理念

特徴は年令は高いが人数が多くプロとの関係も比較的薄く、行政や世間に通じる人も多く居て競技一辺倒ではなく、ダンスをスポーツとして捕らえるが健康維持や仲間造りとその連帯性を高める『生涯スポーツ』としてダンスを通じて全国都県愛好者の交流と増大を最大の理念として組織化を目指してきた。

3) 内部体制の整備充実

競技会の実施は目的ではなく、組織拡大の手段であったがその効果は大きく併せて社会人の懸命な努力により全国的に組織が広がり、更に増大増加が予想されJADA内で会員数も圧倒的に多くなり今までの競技会のような、各都県毎に事情や裁量に合わせて行っていたバラバラの新人戦、一般個人戦、年令別戦、パートナー戦等々では行き詰まって全国的な統制が必要になり、統一された体系で社会人独自のランキング競技会の定着と開催、各種独自行事を行う為、『内部体制と一層の充実』が必要になり、特に法制部の努力と活躍をお願いして(担当・吉田典明氏、副・栗田和夫氏)に運営の基礎を固める24種に互る規約・競技会を含む規則、規程、ガイド等々の制定'86年(S61)4月~'89年(H元)11月及び取りまとめを行い着々と実績と実力を養ってきた。その中の何項目の規則、規程は一部改定又は変更されてJADA~JDSFに引き継がれて利用されている。

4) 社会人団体の活躍

'75年(S50)4月にJADAを設立させてより、10年が経過した'85年(S60)に幾多の努力と困難に打ち勝って、日本社会人ダンス連盟を誕生(兼、関東社会人ダンス連盟)させ、JADA内にあって国内アマチュアダンスの純粋な中心的勢力として活躍し、各都県知事賞、市長杯、教育委員長杯は勿論のこと、内閣総理大臣賞、文部大臣賞、各新聞社賞、を戴けるまで成長し、ダンスをして世間の認知を得る事に貢献してJADA→JDSFの名声を大いに高めたと自負している。

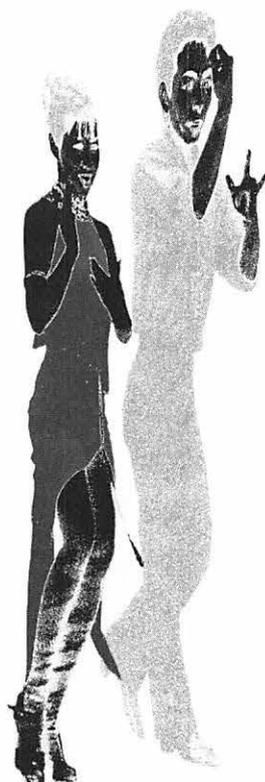
⑪NSDRとLACDの統合及び 社会人組織の解散

1) 日本体育協会より加盟条件の提示

JADA創立当初より念願であった、日本体育協会の加盟申請が認可される条件として、先にプロに財団法人格を認可してから、間もなくプロ組織が内部分裂をして起こしたことに懸念してJADA構成する3団体を1つに統合する条件が提示され、NSDR（社会人）とLACDが統合する事となった。

2) 社会人組織（NSDR）の解散

'94年（H79）まで11年間、更に引続いて関東連絡協議会として3年、計14年間運営して来た社会人連盟も、平成10年群馬県草津総合体育館での関東大会をフィナーレとして、'99年（H11）2月に日本ダンススポーツ連盟の誕生にあわせて、同年の平成11年5月2日を以て全国的な組織活動を中止した。尚、各県組織はLACDとの統合進捗状況に任せる事になった。





県連盟歴代役員

(常務理事以上)

氏名	所属	75 (S50)	76 (S51)	77 (S52)	78 (S53)	79 (S54)	80 (S55)	81 (S56)
鈴木 清	川崎	会 長	会 長	会 長	会 長	会 長	会 長	
山口 直樹	横浜	副 会 長	常務理事	常務理事	常務理事	常務理事	常務理事	常務理事
山名 勇	横浜	事務局長		副 会 長				
庄司 満義	横浜	副事務局長*			理 事 長			
荻原 忠次	川崎	常務理事	常務理事	常務理事	副 会 長	副 会 長	副 会 長	副 会 長
勝原 幸雄	相模		副 会 長	副 会 長	常務理事			
菅原 秀明	横浜		事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	会計監査	会計監査
駒井 三雄	横浜		副事務局長	副事務局長	常務理事			常務理事
三浦 利彦	横浜		常務理事	常務理事	副事務局長	理 事 長	理 事 長	理 事 長
林 敏治	相模		常務理事	常務理事			事務局長	事務局長
多田 義行	相模		常務理事	常務理事	副 会 長	副 会 長	副 会 長	副 会 長
斉藤 誠一	川崎			常務理事	常務理事			
大木 和夫	相模			常務理事				
吉田 典昭	川崎				常務理事	常務理事	常務理事	常務理事
高柳 義治	相模				常務理事	常務理事		
松沢 雄一	横浜				常務理事			
磯 隆司	川崎				常務理事	常務理事		
平尾 幸子	川崎				常務理事	常務理事		
鈴木 元也	横浜				常務理事			
座間 和夫	相模					常務理事		
沢 菊一郎	相模						常務理事	常務理事
本間 孝子	横浜						常務理事	常務理事
石原 知行	横浜						常務理事	
野村 進	川崎						常務理事	

*は途中退任

(常務理事以上)

氏名	所属	82 (S57)	83 (S58)	84 (S59)	85 (S60)	86 (S61)	87 (S62)
鈴木 清	川崎	会長	会長	会長	会長	相談役	相談役
吉田 典昭	川崎	副会長	副会長	副会長	副会長	会長	相談役
多田 義行	相模	副会長	副会長	副会長 理事	副会長 理事	副会長 理事	会長 理事
三浦 利彦	横浜	理事長	理事長				
佐々木勇美	川崎	事務局長	事務局長	副理事長	副理事長	副理事長	副会長
林 敏治	相模	副事務局長	副事務局長				
神谷 和枝	横浜	常務理事	常務理事				
萩原 克幸	相模	常務理事	常務理事				
鈴木 元也	横浜	副会長 *					
北山 英和	横浜	副会長 *					
座間 和夫	相模	常務理事	常務理事	副事務局長*			
本間 孝子	横浜	常務理事*					
小林 勝	相模	常務理事*					
山下 智之	横浜		副会長				
石田 正雄	横浜			副会長	副会長	副会長	副会長
大須賀俊昭	横浜			事務局長	事務局長	事務局長	事務局長
高柳 義治	相模			常務理事	常務理事	常務理事	常務理事
及川 義之	横浜			常務理事*			
小柳 正	相模				副事務局長	副事務局長	副事務局長
中西 奎二	横浜				常務理事	常務理事	常務理事
村社 一夫	川崎						常務理事
増山 郁夫	湘南						常務理事
岡本 一男	湘南						常務理事
山口 良郎	湘南						常務理事
服部 展久	横浜						常務理事

*は途中退任

(常務理事以上)

氏名	所属	88 (S63)	89 (H元)	90 (H2)	91 (H3)	92 (H4)	93 (H5)	94 (H6)
鈴木 清	川崎	相談役	相談役	名誉会長	名誉会長	名誉会長	名誉会長	名誉会長
吉田 典昭	川崎	相談役	相談役	相談役	相談役	相談役	相談役	相談役
多田 義行	相模	会長	会長	会長	会長	相談役	相談役	相談役
佐々木勇美	川崎	副会長	副会長	副会長	副会長	会長	会長	会長
小柳 正	相模	理事長	理事長	理事長	理事長			
石田 正雄	横浜	常務理事						
村社 一夫	川崎			副事務局長	副事務局長	副事務局長	事務局長	
増山 郁夫	湘南	事務局長	事務局長					
岡本 一男	湘南	副事務局長	副事務局長	事務局長	事務局長	副会長	副会長	副会長
服部 展久	横浜	常務理事						
今井 貞人	相模	常務理事	常務理事	副会長				
平林 安曇	湘南	常務理事	常務理事					
山口 良郎	湘南	常務理事						
中島 邦夫	横浜	常務理事						
宮沢 秀子	湘南			事務局長	事務局長			
吉丸 満	川崎			副事務局長	副事務局長	理事長	理事長	理事長
鈴木 幸一	横浜			常務理事	常務理事	副事務局長	副事務局長	
赤堀 峯男	湘南			常務理事	常務理事	常務理事	常務理事	
吉岡 昇治	横浜			常務理事	常務理事	常務理事	常務理事	常務理事
浅野 晟二	相模					常務理事	副理事長	事務局長
桜田 工	相模					常務理事	常務理事	副理事長
藤村 春夫	相模					副事務局長	副事務局長	副事務局長
柴田 登雄	湘南					常務理事	常務理事	常務理事
山崎 勝雄	川崎					常務理事	常務理事	常務理事
田中 和男	湘南					常務理事	常務理事	常務理事
関 美代子	横浜						常務理事	
竹島 弘幸	横浜							常務理事

(常務理事以上)

氏名	所属	95 (H17)	96 (H18)	97 (H19)	98 (H10)	99 (H11)	00 (H12)	01 (H13)
鈴木 清	川崎	名誉会長						
吉田 典昭	川崎	相談役						
多田 義行	相模	相談役	相談役	相談役				
佐々木勇美	川崎	相談役	相談役	相談役				
岡本 一男	湘南	会長	会長					
吉丸 満	川崎	副会長						
吉岡 昇治	横浜			事務局長	事務局長	事務局長	事務局長	事務局長
浅野 晟二	相模	事務局長	副会長	副会長	会長	会長	会長	会長
藤村 春夫	相模	常務理事						
山崎 和雄	川崎	常務理事	常務理事	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
柴田 登雄	湘南	常務理事	常務理事	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
田中 和男	湘南	常務理事	常務理事					
竹島 弘幸	横浜	事務局長	事務局長					
鈴木 達夫	川崎		常務理事		常務理事	常務理事	常務理事	常務理事
鈴木 国夫	横浜		常務理事	常務理事	常務理事	常務理事	常務理事	常務理事
永島 彰	湘南			常務理事	常務理事			
大崎 博	相模				常務理事	常務理事	常務理事	常務理事
永田 英徳	湘南					常務理事	常務理事	常務理事
安田 輝子	川崎						常務理事	常務理事
三上 肇	相模							常務理事
八津 博信	湘南							常務理事
嶋田 洋子	相模							

(常務理事以上)

氏名	所属	02 (H14)	03 (H15)	04 (H16)				
鈴木 清	川崎	名誉会長	名誉会長	名誉会長				
吉田 典昭	川崎	相談役	相談役	相談役				
多田 義行	相模							
佐々木勇美	川崎							
岡本 一男	湘南							
吉丸 満	川崎							
吉岡 昇治	横浜	事務局長	事務局長	事務局長				
浅野 晟二	相模	会長	会長	会長				
藤村 春夫	相模	常務理事	常務理事	常務理事				
山崎 和雄	川崎	副会長	副会長	副会長				
柴田 登雄	湘南	副会長	副会長					
田中 和男	湘南							
竹島 弘幸	横浜							
鈴木 達夫	川崎	常務理事	常務理事	常務理事				
鈴木 国夫	横浜	常務理事	常務理事	常務理事				
永島 彰	湘南							
大崎 博	相模							
永田 英徳	湘南							
安田 輝子	川崎	常務理事	常務理事	常務理事				
三上 肇	相模	常務理事	常務理事					
八津 博信	湘南	常務理事	常務理事	常務理事				
嶋田 洋子	相模			常務理事				

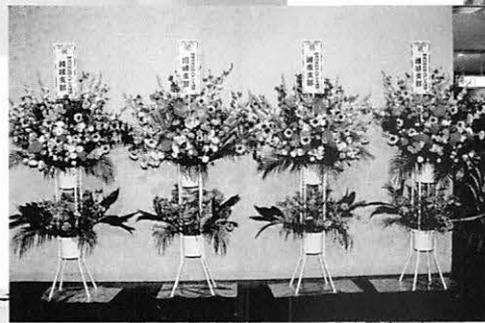
30周年記念神奈川県社会人ダンス連盟祝賀パーティー

平成16年8月29日（日） 於:新横浜プリンスホテル

山口繁雄・小林弥寿枝組によるデモン
ストレーション
経歴：山口繁雄、JDSF最高顧問、
前JADA会長
小林弥寿枝、前JADA常務理事
当日山口、小林様からは来賓祝辞を
頂きました。



来賓のご挨拶をされる和風
経歴：JDSF参与、
前JDSF普及本部長 和様



創立30周年記念式典・ダンスパーティー
神奈川県社会人ダンス連盟



返礼のデモンストレーションを踊られる
山崎和雄・照子御夫妻。
経歴：神奈川県社会人ダンス連盟副会長



盛況裏に進行する記念パーティー

座談会 創立30周年を迎えて

司会 それではみなさん、お忙しいところお集まりいただきましてどうもご苦労様です。20周年のあゆみのあとがきに30周年は必ずやること、いうふうに伝えてありまして、ちょうど今年が神奈川県社会人ダンス連盟発足の30周年記念になります。そこで現役員が相談をして30周年の記念の行事を8月に行う予定でおります。そのときに記念誌を発行したいと思いますので、その記念誌を飾る中身として歴代の会長並びに現会長で、歴史を振り返りながら、我々はどういうふうにするべきなのかという事がテーマで座談会を企画致しました。なお、三代目の会長の多田善行さんをご連絡をとりましたところ、お母さんがちょっと入院をしているということで行けなくて残念だと、しかし文面で組織活動のために頑張ってください。というお返事を頂いております。それから五代目の会長であります岡本一男さんは転籍不明ということで引越しをされたようで、連絡がとれませんでした。1年ぐらい前に連絡をとっていただければという反省がありましたけれども。そういうことで今日は初代の鈴木清さん、二代目の吉田典昭さん、そして四代目の佐々木勇美さんにご足労願ひまして、今後の運営、提言をも含めて、色々進めて行きたいなど。なお司会を担当しますのは私、六代目浅野晟二です。ひとつよろしくお願い致します。

リラックスをして口を湿らせながらやって頂きたいと思います。最初は歴代の会長の時代、自

分がやってきた時代のことを振り返りながら色々組織活動のこととか、苦労したこととか、そういうことについて順次お話を伺えれば幸いです。最初に初代の鈴木会長（現在は名誉会長）ですが、ひとつよろしくお願ひします。

鈴木 みなさんこんばんは、鈴木です。実は20周年記念の「あゆみ」に私は、各支部といいますが今は連盟ですけれども、川崎、それから横浜、相模、湘南をまとめたことがあります。それからもう1つ川崎もちょうど20周年記念だと思うのですが、その記念誌はステップ バイステップという記念誌です。そこにも川崎のサークルをいかにしてまとめたかを中心にして書いてあります。その末尾には30年のときには私はもう生きていないだろう、だから少しページが長くなってでもこれだけのことを書くよ、ということで、約10枚10ページにわたって色々な歴史やら、当時の状況を不信感なども含めて書いておいたんですけれども。もう10年はあっという間に過ぎてしまいました。とうとう年齢も81歳になってしまいました。しかし人も相当変わったし、それからダンスの中身も非常に変わって、特に私はJADAもあわせて神奈川県代表として川崎の会長もやり神奈川県JADAへざっと10年も行ってましたから非情に大変なんですけれども、JADAもJDSFに名前が変わって人も変わり、それから昭和61年の4月に大幅な規約の改訂があり、目的と事業のなかにIDSFの加盟、それから日本体育協会の加盟、法人化



初代会長
鈴木 清さん

の取得が書いてあります。そういうことを目的としたJADAのほとんどの目的を果たして達成しています。残すのはその目的事業の中にあります国民体育祭の参加とそれからオリンピック参加、その二つだけがまだ未達成で、それも決して夢ではないような形になりつつあります。そういうようなことで非常に内容も変わってきましたし、それから一方県のほうも以降体協加盟ということを機にして社会人とそれからLACDが合併をいたしました。その合併は付いたり離れたり付いたり離れたりを重ねなかなかうまくいきませんでしたけれども初代の会長が代わりまして二代の会長が社会人、今三代目がLACDの会長、これはJDSFの専務理事になっていますけれどもそういう人に代わっています。なお大きく変わったのはその間に特に川崎の仙崎勝雄会長が中心になって体協の加盟を、市それから県とともにとりあげたといいますか、体協さんにはいい感じを持って申し送りをしたんですけれども、最近聞きますとどうも9つやそこいらの加盟では本加盟を認めないと13とか14とか一定の数にならないと認めないよ、という状況にまでなっているんですよと。残念な話ですけれどもそういうことです。私どもはそういう状況を本当に見つめなければならないと思うんですけど。一方30年にわたって社会人連盟としていろんな意味でゼロからスタートして、そして一人ひとりをさがしあげてやろうじゃないか、ひとつ頑張ろうじゃないか、ということできた



司会
六代目会長
浅野晟二さん

んですけれども、それから考えてみますとちょうどそこをスタートとして30年が過ぎて、感無量のものがあります、思いひとしおです。ただし、そういうことですから私どもの方から言えば私達はゼロからスタートした手前どうしてもJADAなんかには団体としては認められないで、地域協会すなわち我々のとか学連の手足になっていけばいいんだよという形の団体としか見られなかったものをやっと10年かかって社会人連盟という全国的な団体を作って、全国的にはなかなかまとまりませんでしたけれども、関東中心にまとめて今日までやってきたんですけれども、それがいわゆる組織を中心とした団体と、それから個人を中心としたLACDの団体の人達の考え方があわないために今色んな苦勞をされておるわけです。私どもも時々吉田二代会長とも話をするんですけれども、とにかく現役をさがってしまっている今となつては、それでどうこうはなかなか言えないから陰ながら援助とか、あるいは側面的な支援とかで応援していこうと考えております。それに私は10年くらい前から心臓病特に心筋梗塞とか狭心症をやって、さらに去年の5月からは胃動脈瘤が発見されてダンスなんかやっちゃいけないよ、と禁止されているくらいです。今は歩きを中心にした運動というものに変えて自分が踊りも出来ない、皆さんの中にも入っていけないという立場からいくら力んだところでどうにもならないので、時々みなさんに私達の経験を話して、人とのつきあい

創立30周年を迎えて

とかそれからアマチュア団体の歴史などを話してなんとかみなさんに奮い立って頂かなければならないんじゃないか、というようなことを吉田さんなんかと一緒に、それに浅野会長のひとこともあったんで、やってきているんです。そういう中であと余命いくばくもなくでどういふうにみなさんに貢献したらよいのかと、むしろもう80を過ぎればこのへんで引退したほうが邪魔にならないで、私達もあんまり力んでやらないで済むんじゃないかというような、そんな思いがしているわけです。そこでみなさんに頑張ると言うのもおかしな話ですけども、実のことを言えばそういうことです。まあ相談して、私がいることによって多少防波堤にでもなればという考え方もありまして今までやってきましたが、そんなに長くない寿命だと思っています。ですからみなさんにもどれくらいお手伝いができるか。今日もですね、みなさんの顔を拝見したいと思っていたんですけども、多田さんとか岡本さんがおみえにならないとは非常に残念です。少し話が長くなりましたけれども現在そんな思いをしています。

司会 続きまして、二代の会長、吉田さんに。一番偉大な後を引き継ぐというのはいやなものですけれども、その辺も含めてお話できれば幸いです。

吉田 鈴木さんの方からもうちょっとそのこまかくタイトルで話していただくと私の方楽なんですけれど。

最初JADAの方では鈴木さんだけが出て経理を担当して、当時は社会人というのは団体として全国的になっているわけじゃなくて地域の社会人団体だけの団体ですから非常に下に見られていたんです。という事実がありまして、簡単に言えばうまくそこだけ利用されているというような事情がありました、そんなことがあって社会人も全国的な組織を作らなければいけないということになったんですが、これがまたJADA側からするとえらい抵抗があったわけなんですね。そんなこんなで社会人団体を作ろうということになるとやはり鈴木さんがトップになっていけないといけない、そうするとJADAの役員と県会長の兼務では大変だということで私はやむなく会長ということになったようなところがあります。私は個人的にも会長というタイプじゃないもんですから困ったんですが、しかし今言ったように社会人団体のなるとかになると、鈴木さんに出て行ってもらわなければしょうがないし、となればあとは誰かまかしといてくれ、という人がいないといけないわけですから、やむなく引き受けてなるべく短時間で逃げようと思いましたが。社会人団体と言っても、そんな抵抗がある中でまず関東だけをまとめようということまでとりかかって強引に中央突破みたいなかっこうで関東の連盟を作りました。そのあとで東北であるとか九州であるとか色んな所とコンタクトして、まず色んな県に連盟を作り福島とか山形、仙台をまとめて東北の連盟を立ち上げ



二代目会長
吉田 典昭さん

まではって、LACDと対抗できるだけの組織にはなってきたのですが、今のように組織が成熟しているわけじゃないですからやることはたくさんありましたし、なにもかも新しく作っていかねばならないわけで、どんどん作って形を作り上げてきました。大変でしたが思いかえすと、やりよかった面もありました。逆にみなさんの時期になりますと、出来上がった物の中でより発展させるとかいうことになる、かえって大変な面もあるかと思えます。我々の時代は走ってないといひっくり返っちゃうという時代でしたので、そんなことで社会人の全国組織にまで作って、ある程度活動してきたときに鈴木さんがJADAの方に専念するようになっこうになれば、私はその後を受けて社会人の方を何とかということになった可能性もあったんですが、鈴木さんももうこれ以上はJADAの中に入っていることはしないということになったのですから、それだったら私も残っている必要もないですから私も社会人団体から引きましょう、というようなことで、私は元々会長というタイプではない、どちらかといえば参謀というかそういう立場をやっている人間でしたので、大将がいなくなっちゃったら参謀がいてもしようがないわけですから私も降りることにしました。またちょうどこの時期に私の本業の方で仕事が入る予定があったものですから、それが入っちゃうと、とてもじゃないけどダンスなんてやられないな、というような時期とも重なった



四代目会長
佐々木勇美さん

んです。だが、その仕事の方は日立に持っていかれちゃいまして、駄目になったものですから結果的にはなかったの一旦返還する形になっちゃいましたんです。そのあとは川崎に30年、JADAに20年、その頃になりますと私は社会人団体として必要なことというのは普及である考え、何か物を書いたりしゃべったりするチャンスがあれば言い続けていきたいですね。オリンピック・国体、そのあたりは出るのはどの道LACDの選手になりますし、我々が技術を追っかけてみてもしようがないわけですから、やはり世界にダンスというものを定着させていくということをやらないと我々のレベルの低い一団体ということで終わっちゃうというのが恐かったんで、今も言っているんですがそれも疲れてきたので言うのをやめようということにしました。ですからこれから何かみなさんからご要望があれば力は出来るだけお貸し出来ることはあると思うんですけれども、積極的に社会人の存在理由であるとか、なぜ我々が頑張ってるってやっていかなきゃいけないとか、というようなことはもう言うまいと思っている今日この頃です。

司会 ありがとうございます。またあとで細かいことについては聞きたいと思います。

四代会長佐々木さんです。

佐々木 初代、二代の会長がスタートからある組織の作ったのち私が引き継ぎましたが意外と楽でした。形が出来てましたから。あとはいかに増やすかということ、そちらに力を入れ会員

創立30周年を迎えて

を増やしていくことで活動を進めてきました。神奈川県長の会長を引き受けてそのころはちょうどJADAの一本化をねらって、今後どうしようかということで平成2年だったと思いますが、県の会長をやる前からちょっと川崎の会長のときからJADAに関わっていきまして、平成2年～7年までほとんど法人化の問題に携わって来ました。県会長やりながら気配りが出来なくて。そのうち会社から栃木県、一年間それを努めながらここから会議の度に帰るわけです。月に会議ばかりで7～8件、週に2回ぐらいのペースだったと思います。そのとき私は心臓悪くしちゃって、定年になって心筋梗塞になり、弱くしたのかと今思えば。心臓は二つとも強かったですけど。定年近くなって仕事を引き受けてから、仕事のせいにするわけじゃないですけど。仕事はどちらかという県の会長をやっていたときも神奈川県全体を見るというよりも上のことばかりでした。統一の問題、三団体学連とLACDと社会人を一本化する問題から始まりました。そのとき第1回目が私が座長をやれと言われてやったんです。平成2年だと思います。そのときにトロイカ方式、三本立てでいこうと出たが、LACDの人達は乗り気じゃなかった。だてに一本化、学連も反対の感じでした。そのうちに財団が平成4年に法人化されまして、その2年前からLACDの人達はその空気をつかんでいたと思うので、一本化しなければいけないというのは多分にあったと思います。あのときは社会人

が一番強かったですから。数が多いから何やっても役所に顔が利くってあったんで一本化の話は長引いて、長引いて関東が解散したのが平成7、8年頃でやっと一本化しました。その頃は色々な話を聞いたりする程度でメインから外れてましたからわかりませんが。そのときは文部省との交渉がほとんどです。その報告会議も月に何回もあって結局文部省は、法人断定は団体は一本だということで、だから今のアマチュアダンス連盟の法人化はすごくかかりました。財団は簡単に出来たんですね。文部省が態度を変えてきたように感じています。過去振り返ったらもう時代が変わってきているなとつくづく感じました。私はそんなことばかりあったから。だから組織拡大普及を鈴木さんと話す機会があって、鈴木さんが行かれないと私が代理として。その頃は長瀬さんとか根本さんとか御村さん、諸星さんの会長のときに有楽町の喫茶店で会議をしたんですけど、自前でしたネ今変わっていますね。そのときは手弁当でやりましたからね。

司会 一応お三方の話、ちょっと私の方から言いたいのですが。私が知るところでは現在のJADAの規約・規程類というのはほとんど神奈川県で基本的な土台を作られた話を。

鈴木 あれは、昭和61年にやった役員ですね。全面改訂ですから吉田さんが作ったんじゃないですか？

吉田 そうですね。鈴木さんはどうだったでしょうか。私もJADAで今度社会人団体が出来て、

社会人の代表の一人としてJADAへ出ていった時期に規約を全面的に改訂したいということで私の方で草案を作って提案してそれがJDSFになるまでのJADAのほぼそのまま規約が流れていたんです。ということだと思います。

鈴木 1986年ですから昭和61年4月ですね。

吉田 そこまでおぼえていないですね。

鈴木 吉田さん、関東が解散したときに規約・規程を見るとね20何項目の規約・規程がありましたね。

吉田 そうでしたね。鈴木さんのところで確認してもらい会議にかけました。

司会 まあその辺はなかなかね今の人は解っていないですよ。

吉田 JDSFになる前はたとえば社会人のランキング戦なんかも鈴木さんが会長の時代になんとか作っちゃった。競技会を合流しようということで、それが葉が効きすぎるくらい加熱するくらいになったと思うけども、それだって今のJDSFの役員からすれば自分達が作ったような顔をしてやっていますね。指導員制度も、鈴木さんも私も聞いたあとなんですけれど、JADAの会長だとか山口さんの方から特別に要請があって指導員制度をという話だったものですからそれだけ作るためにJADAに入れましようということで2年ぐらいたんですが、やはり私が考えている指導員制度とかなり程遠いものがあったので、とりあえず当時JADAの気に入るかっこうで指導員制度というものを規則化

して私はもうそこで引いちゃったんです。そのあとそれだって今どんなかっこうでやっているか知りませんが、作った当時のことはほとんど忘れ去られて自分達がやったようにやっているんじゃないですかね、わかりませんが。ただそれはいいんじゃないですか。そんなもんだとすればいいことであって。

司会 私が覚えているのは東洋町のアドバンスの体育館で、あのときの吉田さんは何の肩書きだったのかわかりませんが4級以下の規定ファイガーを作るといって行きましたよね。

吉田 あれは等級戦を作るにあたっての打ち合わせですね。

司会 ランキング戦を作ったことでかなりダンス人口が爆発的に、まあ社会的な背景も当然あったでしょうけど。その功罪をちょっと。いいことばかりではないようが気がするんですが。

吉田 いいこととしては競技というものが非常に盛んになって内部的には競技人口が増えるということでダンスをやる人が必然的に増えたということがありますね。外部的には行政とか一般社会に対してダンスというものがマイナスのというか、マイナーなイメージでなくて、非常にスポーツ性を帯びた激しい運動であると、というようなことを知らしめたという功績はあると思います。本題の罪の方になると競技選手が増えて、従って大会をやると収入もあると。その前までは大会をやると赤字だったですから。そうみると運営も楽になるし、そういう競技の

創立30周年を迎えて

イベントというものも比較的楽に開催出来るということで、それで満足しちゃって、あるいはそれで手いっぱいになってきてしまう、ということで本来もっとやるべき社会底辺への普及とかそういうところに手が回らなくなっちゃったというのが罪の方になるかも知れませんね。

司会 ダンス人口が増えて手が回らなくなったということのひとつがサークルのあり方も。この辺は佐々木さんの時代からそういうのが見受けられたのではないですか。

佐々木 そうですね、全国組織を作らなくてはいけないということ、それからある程度認められてありますので体制をしっかりとしようということでそっちの議論がかなり法人一本化の中で、一本化ばかりの会議でしたがそのあとに出たのが社会人の立場ですよ。えーと思ったんですが、向こうの腹が読めたんですね。彼らは競技の上のクラス一本化中心として活動しようとしているのかということを感じとったんです。それはおかしいと議論して、つまこまなかったんですが、今すぐ騒ぐよりももっと様子を見たいという気持ちがあったもので騒がなかったんですけど。今結果的にはもうそうなっちゃったんですね。社会人は下の存在になっちゃっているような気がするんですよ。

司会 これはね、4級ではなくて組織統合のときに選手で6級～A級まで一本化したいというふうに言ったんですけども、結局今のような選手へのサービスをするということの理由で

コンピュータ管理出来ないということでAリーグが消極的だったんですね。JADAもだんだん全国組織があって全国的になってその後競技会も繁栄に行われるようになって徐々に競技指向というのは必ずしも当たらないかも知れませんが、けれども一般的には競技人口が増えてきた、一方では社会人ダンス連盟を作った精神が少しづつ変わってきたのではないかというふうに思うんですけど。その辺は鈴木さんから率直に「いや変わってないよ」とか「こうだった」というご意見を、感想ですかね。

鈴木 私は、社会人というのは当時の、今から30年前ですよ、当時の様子を見ますと一般的にダンスをやろうという階級はソサエティーだけだったんです。大体弁護士とか町工場のおやじとか医者とかそういう階級の人、あるいは中小企業の商工業の奥さんとかそういう人達がダンスをやっていたというのが現況というかそういう時代だったんですよ。ところがこれで果たしてダンスをやってみたら非常に幅広く年齢の高い層から低い層まで出来るんで、日本の文化まで行かないけれどもスポーツとして広めればみなさんが飛びついてくるんじゃないかと、むしろそれを証明した方がいいんじゃないかという考えなんです。しかも競技を中心とした教室に行くと非常にお金がかかって、しかも横の連絡なんか何もないんですね。先生と個人とあるいはその家庭、その三角点を往復しているだけなんです。教室と自分の家ということですね。

こういうことで本当にダンスというものが発展あるいは優勢になるかどうかと。やっぱり一般の人を対象にするにはまず安く、手軽に。安くというのは先輩が後輩を指導していく、いくらかの会費で公民館とか公共施設を使うことによって安く、しかも団体としての上下関係ではなく、仲間としての交流が出来るだろう、そういうことからサークル中心のダンスを奨励しようとしたんですけれども。ダンスというのは技術もいりますし、柔道だとか剣道だとか色んな文化から比べると多少華やかな点がございましてこれを利用して競技に結び付けたらダンス人口が増えるんじゃないかと、むしろ競技を目的とするんじゃなくて、体育といいますか体を丈夫にして仲間作りをしてそしてお互いに交流していくようなことを図る、1つの意味で競技というものを利用しよう、それによってダンス人口を増やそう、とまあこう考えたんですよ。だから競技一辺倒のダンスだけじゃなく、もちろん中にはそういう中から教室でも行って競技でも出ようという人があってもいいと思いますし、そういうふうになってくることは自然なことじゃないかというふうに考えたんですけれども。競技というのは我々の本当の目的ではなかった、いわゆる生涯スポーツとして。それからお互いに平等な関係で公共施設を使って社会の認知を得ようと、社会からスポーツだというような形で認められようと、私は行政・官庁に行くと「ダンスをおまえやっているんだってな、うまいこ

とやっているんじゃないの」そう言われたのが実際なんです。こんなことじゃね、実際ダンスってそんなもんじゃありませんからね。中にはそういう人もいました。埼玉県の一部の官庁から僕に猛烈な抗議がきました。「ダンスというのは色気をついたメスとオスが一緒になってあれしてる、そういうような、スポーツの名を借りた遊びじゃないのか」というようなことも言われたこともあります。弁明はしてきましてけれど、私達の本心はそういうことでなく、今2級だとか3級だとか1級だとか言ってやっておりますけれどもあれが本当に競技かと言えるのか、トップダンサーというのはB級・A級そういう人達をいうのでその以下というのは遊びのダンスであり、あるいは娯楽のダンスであり真のダンスであると思うんです。私達は若い人も年配者も参加の出来る国民的なスポーツというような考え方をしてましたから競技したいんじゃないんです。そんなことを言うとみなさんも出来る人たくさんいますから何言っているんだという人もいるかも知れませんが本心はそうじゃなく、そういう中から何人かがそういうふう発展して上がっていくことが当然ありうることですからそれはそれでいいのですけれども。全体の平均値を見れば30%ぐらいの人、あるいは85%ぐらいの人が生涯スポーツとして仲間を作る様子、健康を作る様子そういうことを目的としてやってきたということです。従って競技が目的じゃなかったというふうに思います。

創立30周年を迎えて

司会 私がJADAに入った頃は、当時の多田会長が競技会場をあちこち変えるので「どして変えるの」と聞いたところ「浅野さん、競技会というのは普及の一番大きな柱なんだよ、競技そのものじゃない」というご指導を頂きました。先ほど佐々木さんは確かに私も一番大変な時期、役員としては一番多忙な時期にやられ、その当時の社会人とJADAとの関係をもうちよっとお話頂けたらと。

佐々木 平成2年に始まったとき彼らも信念持っていたと思う。こうこうするとそれが見えた感じを受けたんですけど、そのとき社会人がかなり抵抗したことで伸びたと思うのですけどね。ランキング制となるとぶつかることが非常に多くて、上級のクラスの考え方を防ぐしかないことだったような気がしますね。それでもぶつかわっちゃうんですね。「社会人は、あとめっちゃ変わりますよと、だからそんな堅いこと言うんじゃない」と言うのですが「そうじゃない」と少しもかみ合わないんですね、平行線、平行線で。だからなかなか一本化するっていう方向で動いても相当時間がかかって。本当に彼はそういうことを言っているのか、と疑問に思ったんです。不思議だなと。ダンスという共通のものがあるわけだからそれをまとめて特に学連社会人も別にあるわけだから違うんですね。その違いをお互いあれしてその中でうまく組織作りを作られていいんじゃないかと思ったんだけど、そんなの駄目だと。結局社会人は力がありすぎたと

思うんですね。彼は勢いだからなんとかしてそれを弱体化させて、今思えばね。だったのかなど気がしますね。

もうかなり色んな抵抗したり、机たたいたり、机をひっくり返しはしなかったけれどそんなことがあったんですね。だからもうストレスたまるは、疲れたですね（笑い）。まだ地元で、川崎の中でやっていたのならね（笑い）。

鈴木 残念なことは、中の人というのは大体ね学連主体の人が多くいますよ。そうすると、18、9からダンスを始めてそれで20歳ぐらいになるともうC級だB級だと言う人が出てくるし、しかもダンスをやっているのだからあまり強い人はいないのだけれど、ただ頭はいいですよ、大学生が多いですから。我々の方はどちらかというと退職間際になってダンスでもやろうかなとか、スポーツでも何かないかしら、としようがないからなんて言ってダンスに入ってきた人が多いものですし、しかも女性は子供が大きくなってきて手離れがしてきたから、じゃあダンスを、誰かいい人いないかしらと隣のだんなさんつかまえてカップルなんかになったりして、そんなかっこうですから、質が違うんですね。だから残念なことには社会人のなんというか、心的使命といいますか質といいますか、そのような話ですけどそれがどうしてもむこうのLACDの人に比べると少ないですよ。薄いですよ。それがなんといっても色んな所に響いてきて思うようなことが出来ないようなことで。

先ほどから散々出ている、やっぱりね闘いの連続だったんですね。我々が少し力をつけてくると彼らが色んなことを文句言ってきたり、邪魔したりね、制御をしてきたり、そういうことで非常に障害というか、邪魔をされた。ですから常に闘いと言いますかそういうことに明け暮れたわけです。そういう歴史をご存知ない方が今非常に多いものですから我々から見るとはがゆくてしょうがないこともあるんですよ、正直な話。ちょっとなんとなく会長なんて言われているからその気になって会長職をずっと努めていたりね、何もしなくてもなんとなく終わっちゃう。我々なんか先ほど吉田さんが言っていたように、マグロと同じなんですよ、止まったらもうコロリになっちゃうんですよ。前進するか泳いでいるというか、そうでなければもうつぶされちゃったんですよ。ところがそれに代えて多少サポートは手をこまねいていてもなんとかやっていけるという時代ですからね。まあそういう歴史の上に成り立った社会人のそういうことを知って奮い立つなんていうそんな必要ないですけども、それは肝に銘じて自分達の目標とか目的の1つにして頑張って頂きたいというふうに思っているんですね。

司会 吉田さん、なんとなく言うのもいやになったって言ってましたが、今現実には現実として渦中にある人達というのは年中業務に追われて、それもかなり多い、それでなかなか全般を見ていくのは非常に困難、しかしそれもやらなけれ

ばいけないということと、それから特に上団体の情報というのが全国的に今繋がっていないのもありまして、今後どういうふうにかこの神奈川県社会人ダンス連盟がいったらいいのかこの辺についてズバッとズバッとひとつお願いしたいんですが。

吉田 さっき鈴木さんがおっしゃっている、我々はダンスというものが非常に低く社会に見られてきた、それを何とかしたいと言っていた、それには競技というものが非常にアピールするわけです。競技というものを推し進めてきた、そうしているうちに今度は競技することが目的に変わるべきだと言ってやっているんですよ。年間の競技関係のイベントを追っかけるだけで現役員は手いっぱいだと思うんですよ。私が提案したのはその競技を1つ2つ減らしてでもその普及というものをやっていかないと我々社会人の存在理由がないということを行っているんですが、現実にはそれじゃ県大会やめちゃいましょうとか、市の大会を1回でやりましょうとかそういう話ですからいけるかどうかですよ。やっぱりこのままいくと必ずJDSFは競技ダンス連盟ですから競技ダンスが目的ですから、普及ということは、聞けば普及もやりますという、けれどもじゃあJDSFで普及何やってるのと言っても何もやってませんからね。これはJDSFはこれでいいんでしょうけれどもその活動系の主体の中に社会人は取り込まれてだんだんと下働きで終わって人と金を出せというJADAみた

創立30周年を迎えて

いな形になっていくだろうというふうに考えられるわけです。現にそうなっているだろうと思います。だからやっぱり我々がこれからどうしていくかと言うと、非競技ダンス、いいかげんなどという意味じゃなくて、競技をやる人はもちろん出てきていいんですが、それ以前の非競技ダンスをたしなむ人が増えて社会に定着していくあたりをきちんとやっていかないと我々の存在理由がそもそもないわけです。LACDより優秀な選手を作ってオリンピックに出しましょう、なんて我々出来るわけないわけです。又その必要もないわけですから。そういうことを言ったり書いたりしているんですが現実には役員の方は年間スケジュールに追われてますからね、それをこなして、上部団体からの要請をこなしていくだけで手いっぱいだと思うんですね。そこを何とかしようということを考えない限り、このままズルズルいっちゃいますからね。いずれは社会人団体って何のためにあるの？っていくことになっていく、別になくたっていいんじゃないの、そろそろ解散しようか、解散しようかといっても発展的解散じゃないですよ、消滅ですよ。消滅しても何にもすぐには困らない。困らないけれども全部やり込められて、外堀も内堀も埋められてその中でなんとなくレベルの低い競技を続けていく、LACDは競技団体であれば社会人もその低い競技団体、ということになりかねないと言うことが一番心配の点だし、それを解消していくというのがこれからの、真

面目に考えれば目的であるべきだと思うんですけどね。やるのはえらい大変なことだとそれでもし「おまえ、先頭になってやってみろ」と言われたってお断りするくらいの大変なことだと思っていますけど。

司会 その大変なことを今までの歴史の中で社会人が例えば解散しないでずっと全国的に追求していけば今日統合されたとしても大きな違いがあったと思うんですけれども今言っても仕方がない。

吉田 「たられば」の話をするれば鈴木さんが降りると言わなければ、私も降りなければ、社会人を解散しなければ、かなり形が変わっていると思いますね。先ほどこちょっと指導員制度の話が出ましたけれど、私は指導員というのは非競技ダンスの指導も出来る人間を指導員として育てていくというJDSEFの中にクローズしたかったのですが1万人とか2万人とか指導員というのは最低必要だと思う。というつもりでいたんですがもし社会人団体も解散せずにいい形の統一が出来ていればそういう仕事も非常にうまくいっていた可能性もありますね。だけどそれは今になって「たられば」の話。

司会 その辺で、今度鈴木さんにちょっとお聞きしたいんですけれども。ずばり言って統合については同時にやるべきだったんじゃないかなど。社会人とLACDがね同時に解散はすべきであって社会人は当時は信頼をしていたのか、私もそのときの役員の一人数ですけれども、早々

と解散をしてしまった、LACDはなんだかんだ言ってもまだ名前は変えていますが引き伸ばしている、これが一番大きな原因、社会人の全国組織が横の繋がりがなくなったという、この辺についてはどういうふうに見てますか。

鈴木 先ほど言いましたけどね、やっぱり僕は人材の不足だと思うんですよ。こういうふうに決めればね、先はどうなるかという見通しとか予測の出来る人がいないんですよ社会人には、残念だけど。その差がなんか騙されたような形で解散を先にして本部だけは別の所で残って、そして名前を変えていまだに頑張っている。我々の方は真っ正直に解散しちゃって、連絡・協議も出来ないというふうにさせられたというか、なったというか。以前から人材の不足が将来を予見したりそれから予測したりする能力に欠けていた時代というのは逆に言うと割合と正直な人の集まりだということが言えるのかなと思っていますがね。私は吉田さんに僕の代わりをね、全日本の会長をやってくれというふうに言ったんですけれども。先ほど言ったように大きな仕事が入ってくるというようなこともありまして、あなたがやめるんじゃ私もやだよということもありまして、それでやはり全国をまとめるならば東京じゃないかと、日本の中心はやっぱり大江戸だと、だからまとめるのは東京じゃないかと思って、そこに任せたんですよ、今思うと。人材がいなかったと、そういうことです。

司会 そういう中で先ほど吉田さんが今後の

社会人について御提言をされました。それは又佐々木さんは佐々木さんなりに外部というか先日に関員を除いて少し肩の荷を降ろしてから今の神奈川県社会人を見た場合今後どのようなことをしないとやっていけないのかなーということの御提言がありましたらどうぞ。

佐々木 またゼロからのスタートみたいな感じだと思いますね。これは神奈川県だけじゃないと思うんだよね、上からきたものに乗っかっているとこばかりでしょ。それによって動かされているというか、本当に苦勞して育ったところは神奈川とか千葉とか関東でしょ。他はただ乗っかって育てられて動くしかないところばかりですから、これはゼロからスタートするしかない社会人の感じを戻すには、相当な時間が掛かるんじゃないかと思います。

司会 時間の制約もありますので、一言づつズバリ30周年を迎えるに当たって社会人はどうか、簡単にまず鈴木さんから。

鈴木 初心に戻るというか、社会人連盟を結成したときの初心に戻るというか、そういう歴史を知るというか、そういう意味でこの間浅野さんにも「条件つけないから何か書かないかよ」と言われていますよね。いつまで書けばいいのかは言われてないんですけど、そういう意味で実はイダスキャンプにアマチュアダンスが出来るまでの歴史ということでA4で約8ページ書いたことがあるんですよ。前書きとしてそう

座談会 創立30周年を迎えて

th

いう修正をうたってそして社会人連盟が出来るまでの色々な過去の歴史を少し手直しをしてA4で8ページから9ページになると思うんですけどそれを出して、何という名前の記念誌が出来るか知らないけれどもいずれにしてもこの会議も記念誌に載るんでしょうし、私がそういうことを書いてみなさんに訴えるというか、初心に帰っていく、そういうことを記念誌に載せて頂ければと思って実は昨日までやっと構想が出来たんですよ。でも8ページから9ページをワープロで打つのは大変ですから、どう手直ししようかと思って考えているんです。そんなことを思っみなさんの参考にしたいなど、こう思っているんです。

司会 じゃあ吉田さん。

吉田 県のダンススポーツ連盟で例えば重要な提案がなされたときに、県の社会人組織に持ち帰って検討した上で回答しますと、このくらいのことが言えなかったならば社会人組織としてあってもなくても対して変わりがない。そうじゃなくてしっかりやろうというならば、今もう1回繰り返しますけれど、県の会議で重要な提案がなされたとき事務的なことはその場で賛成や反対してもいいのですが、負担になるような問題のときは、我々の社会人組織に持ち帰って検討しますと、これくらいのことが言えないならば社会人組織としての意味がない。と思います。

司会 では佐々木さん。

佐々木 ダンスは今、趣味が多様化していますよね。するとダンスはお金かけても習いたくない、ただだったらやってみようと言うのが多い中で持続的にやれるだけのハートがあるかないかです。それがなければもうセパレートしてやるべきだと思っています。セパレートというのは非競技的な競技も望まない、関心をもてば行くだろうがそういう組織と純然たる競技団体指向で1つの形を作ると、焦点は二つあってそれでうまく共通することは前に言ったように平成2年に団体が二つ作られていくんじゃないかと気がしますね将来ですけれども。最近は趣味の多様化でダンスに入って来る人が減っていますよね。なにもダンスだけじゃないってありますから、だから今がピークなのかなってということで。

司会 では、山崎さん。山崎さんは長い間社会人を担当しておられたので、今話を聞いて感じたことを言ってもらいたいなど。

山崎 ただピントが外れているかもしれませんが、私が役員として一番力を入れたのは体協です。なぜ体協かということは今いるかどうか分かりませんが、臼井副会長が私に「体協はオリンピックと名前が載っているが行くのは1人か2人だよ」と。これは技術と言っているけれども目的はあくまでも普及ですよ。いわゆるダンス並びに長い人生をとにかく体協はわかっているよと。いわゆる生涯スポーツですよ。生涯スポーツを力を入れるのは体協だよと、だからとにかくもっとおれ達を利用しろというこ



山崎 和雄さん

とが私が一番役員として力を入れてきました。10年前でしたが。それで私も体協をやらしてください、と言って県の役をやったときに、一番情熱を燃やしたのはもちろんいっぱいあるんですけど体協でした。エピソードがありますけど、仕事をほおってでも体協に行くと、いうふうなことでやってきまして、とにかく入って生涯スポーツのために体協はがんばるから、手助けするからやれよと言われてやったつもりであります。その体協に共感を持って頂いたのが安田さんで、今安田さんにバトンタッチして体協はOKというふうなみて、色々甘い面もあったんですけど、一番力をいれたのが体協さんでした。体協さんで色々話していると思うんですが、今社会人が一番力を入れているのがなんだかんだと言っても年輪ピックということで、川崎につきましては、とにかく金もかかるけど年輪ピックやろうよ、ということで過去2回やって、やっと今認知を受けて、川崎から年輪ピックを根をおろしているかということなので社会人という言葉は使いたくないんですが、いうならば生涯スポーツと年輪ピックということでこのへんの和が出来ればいいなどというのが私の実感でございます。

司会 どうもありがとうございました。

運動の“うず”にいる現役の役員は忙しく日程を消化することに追われて、足もとをみるとか、先をみるとかすることが忘れがちであると思います。

本日は、歴代の会長に、鋭いご意見を聞かせて

もらいました。今後この座談会の内容をいかにしたら運動体に転化できるかが社会人ダンス連盟の“質”を問われるところだと思います。

これで歴代会長を囲む座談会を終了させていただきます。ご協力感謝いたします。ありがとうございました。



Anniversary

30th

写真で見る30年の思い出



昭和50年(1975年)4月1日
神奈川県社会人ダンス連盟創立記念
ダンスパーティ (川崎支部発会式を兼ねる)
(読売ホール) ?
川崎市医師会館 ?
デモ (ワルツ) 鈴木清 (富士電機)

昭和56年(1981年)2月8日
第1回三笠宮杯 (10ダンスとして出発)
以降三笠宮杯と称す 川崎市中心企業婦人会館 (準備川崎支部)
実行委員長 鈴木清 (神奈川県会長)

*三笠宮杯は神奈川県で第1回が行なわれ
宮様が出席された。(プログラム参照)
以降アマチュアの最高競技会となり毎年続いている。

昭和50年(1975年)4月1日
神奈川県社会人ダンス連盟
創立記念ダンスパーティ (川崎医師会館で)
デモは (ルンバ) 山口繁雄 (東京都)



日時会場 不明 第1回相模支部大会



昭和50年(1975年)4月1日
神奈川県川崎支部創立発会式
川崎読売ホール (ダンスパーティを兼ねて)
川崎、横浜2支部で発足



昭和56年(1981年)10月11日
第9回神奈川県大会
川崎市田辺新田
富士電機製造株式会社 (体育館)



昭和59年(1984年)2月26日
第4回三笠宮杯競技ダンス大会
後楽園ホール
三笠宮様への説明役 鈴木清 (神奈川県会長)



昭和57年(1982年)8月8日
湘南支部結成準備会 (湘南サークル協議会)
藤沢市民会館
出席者 山口 東京都会長
鈴木 神奈川県会長
多田 相模支部会長
小林勝氏要請による



昭和58年(1983年)4月17日
第11回県大会
川崎市多摩市民館



昭和58年(1983年)4月17日
第11回県大会 表彰式
川崎市多摩市民館

Anniversary
30
th

写真で見る30年の思い出



昭和59年(1984年)4月15日 第15回川崎大会
中小企業婦人会館 川崎支部大会 役員紹介



昭和60年(1985年)3月23日 ?
創立10周年記念 第14回神奈川県大会
戸塚小学校体育館
◎3月にも拘らず記録的大雪で停電し、
横須賀線もストップし帰路に困った。



昭和60年(1985年)3月31日
第13回神奈川県社会人アマチュアダンス競技大会
於 厚木市立厚木中学校体育館
デモンストレーション「タンゴ」(デモ3曲)
リーダー 鈴木清
パートナー 下園登志子

昭和60年(1985年)3月31日 (10年目)
第13回神奈川県大会
厚木中学校体育館
創立記念ダンスパーティ (S50年4月) の
再現をする事となり東京都会長と
神奈川県会長とデモを行なう。
東京都会長の山口 繁雄
小林弥喜枝 ラテン デモ
R.Ca.P 3曲を



18回 神奈川県社会人ダンス競技大会



平成元年(1989年)3月5日
第18回神奈川県大会優勝記念写真
川崎チーム(団体戦)と川崎役員
湘南チサンホテル



昭和61年(1986年)4月6日
第19回川崎大会 産文6F
審査員 鈴木清他2名



昭和61年(1986年)3月23日 ?
神奈川県大会(第10周年記念大会)
戸塚小学校(体)
◎3月にも拘らず記録的大雪が降り
横須賀線(JR)も止まり帰路に困った。

平成元年(1989年)3月25日(S64年)
第9回三笠宮大会に採点管理委員として
応援に参した神奈川県役員
(東京第二体育館)



Anniversary

30
th

写真で見る30年の思い出

平成元年(1989年)10月15日
第19回神奈川県社会人ダンス競技会
大和市林間小学校体育館
(県大会第1回大会は、
この林間小学校で行い、
非常に思い出深い会場である。)



平成元年(1989年)10月15日
第19回県大会
大和市林間小学校
(第1回県大会開催会場で 非常に懐かしい)



平成2年(1990年)7月7~8日
神奈川県リーダースキャンプ
石和温泉「くにたち」
→恵林寺等之



挨拶される 鈴木清名誉会長



平成6年(1994年)6月26日
神奈川県社会人ダンス連盟
創立20周年記念祝賀会
新横浜国際ホテル
東京都会長 山口繁雄氏も出席



技術発表 出演者一同



平成6年(1994年)10月2日
川崎支部創立20周年記念祝賀会
於 セントラル 挨拶 鈴木清相談役



平成10年(1998年) 2月7日?
神奈川県社会人ダンス連盟
リーダーズキャンプ
箱根リカーブ

平成10年(1998年)9月13~14日
川崎支部リーダーズキャンプ
箱根リカーブ



平成10年(1998年)2月7日
県リーダーズキャンプ会場
箱根リカーブ



Anniversary

30th

写真で見る30年の思い出



平成11年(1999年)7月24～25日
神奈川県社会人ダンス連盟
リーダースキャンプ
葉山(湘南国際村)



平成11年(1999年)7月24、25日 神奈川県社会人ダンス連盟 リーダースキャンプ 葉山(湘南国際村)



祝儀のお花

旗は横浜市連盟旗



平成11年8月 横浜市ダンス連盟10周年記念 デモンストレーションはシンキソン組



平成12年(2000年)4月30日
湘南イング25周年記念ダンスパーティ
会場：鎌倉プリンスホテル

平成11年8月 横浜市ダンス連盟10周年記念 デモンストレーションはシンクソン組



Anniversary

30
th

写真で見る30年の思い出



平成12年（2000年）7月1日
相模アマチュアダンス連合
創立25周年記念祝賀パーティー
会場：ホテルセンチュリー相模大野



平成12年(2000年)7月1日 相模アマチュアダンス連合
創立25周年記念祝賀パーティー 会場:ホテルセンチュリー相模大野

相模アマチュアダンス連合 創立25周年祝賀パーティー



平成14年(2002年)●月●日
ベイサイドカップ争奪
第12回 横浜市ダンススポーツ大会
会場:横浜文化体育館



Anniversary
30
th

写真で見る30年の思い出

昭和62年（1987年）11月23日
 第三回関東スポーツダンス大会
 東京薬業健保会館
 （東京都千代田区永田町）
 鈴木会長挨拶
 主催：
 関東社会人ダンス連盟
 後援：朝日新聞社
 JADA,NSDR



平成15年（2003年）6月29日
 JDSF法人設立記念会場にて
 功労者表彰を受ける鈴木ご夫妻
 高輪プリンスホテルにて

平成11年（1999年）10月10日
 湘南マリン創立15周年記念ダンスパーティー
 今は亡き柴田副会長（右側）

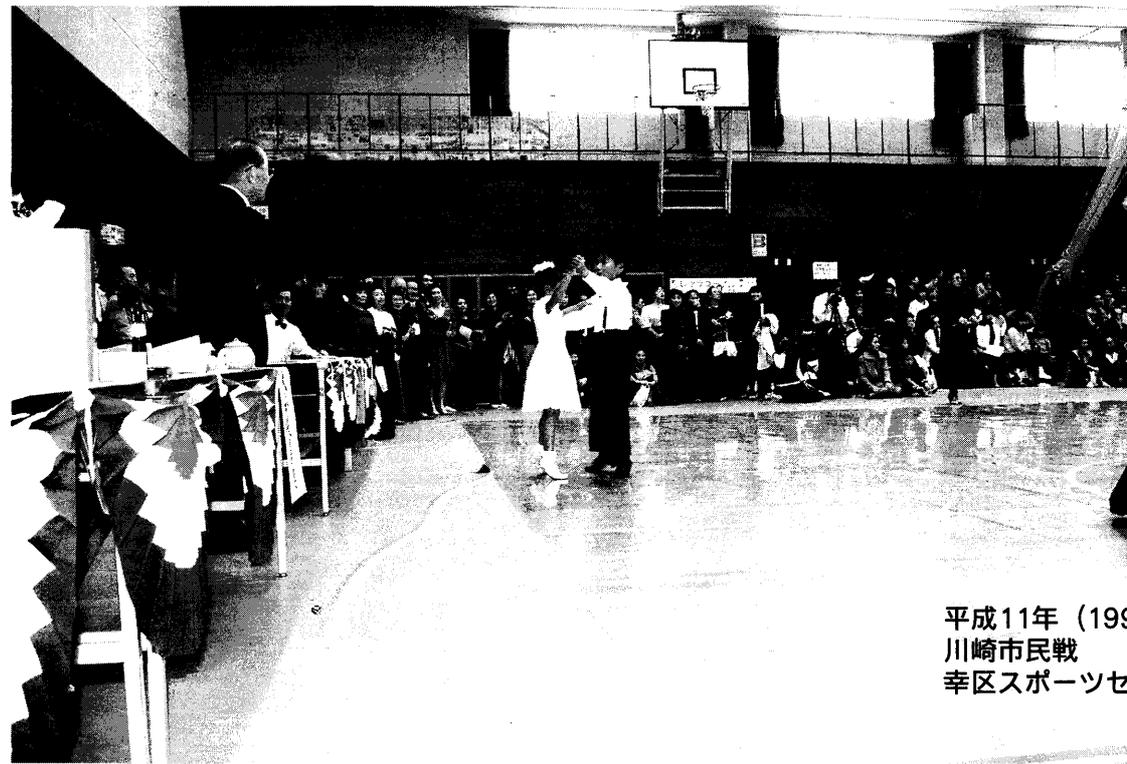




平成11年（1999年）12月19日
第4回神奈川県大会
南足柄体育センター



平成11年（1999年）8月15日
横浜市社会人ダンス連盟
創立10周年記念ダンスパーティー



平成11年（1999年）11月21日
川崎市民戦
幸区スポーツセンター

Anniversary
30
th

写真で見る30年の思い出



平成15年（2003年）5月24日
川崎連盟リーダースキャンプ
伊東サンハトヤ



平成15年（2003年）6月29日
JDSF 創立25周年式典
高輪プリンスホテル
功労者表彰を受ける(神奈川で一人)

写真 右側より安西日体協会長、
鈴木神奈川社会人ダンス協会長、
堀口LACD二代目会長、
根本LACD三代目会長

「30周年に託す」

神奈川県社会人ダンス連盟
30周年記念祝賀会実行委員長
浅野 晟 二

20周年の記念誌「あゆみ」の編集後記に「30周年に託す」旨を岡本副会長（当時）よりの言葉がありました。あつというまの10年でした。この間JADAからJDSFと組織変更がありアマチュア団体の組織もおおしく変わってきました。社会的認知は獲得され組織の根幹的思想は「技術者集団」への道へとすすみ、生涯学習スポーツとしての「健康維持増進、地域的交流、余暇善用」などの社会人ダンス連盟の思想は消え去らんとしています。

全国の会員は競技者を支えよりよい競技会（選手の立場のみ）を追求しこれを各県団体の主目的事業とし普及は技術（競技会）の付随的立場に置かれてきました。

従来の三団体加盟方式（LACD、学連、社会人）のボトムアップからトップダウン方式の色合いが濃厚になり、JDSF本部のみが太る集金、動員の形態も顕著になりました。特に首都圏の各県団体はJDSFの事業を成功させるために苦勞していると思います。

JDSFはJADA設立時の組織的戦略の目的は達成しました。これからは主目的達成への努力がなされると思います。

神奈川県社会人ダンス連盟は自分たちの目的とJDSFの目的を前進的に結合させていかねばなりません。

記念誌文中の座談会において鈴木名誉会長「組織は人なり、人材の質の確保育成」また吉田相談役「組織は動態、停止したらお終い」更に佐々木相談役より「現実を分析し将来を見とおしする洞察力が欠落している」というお言葉をいただいております。

更に多田会長より座談会欠席届けの中で社会人の為に頑張ってくださいと文面をいただいた事を付記しておきます。

今後の道先に明かりを灯すと同時に極めて重いお言葉と思います。

30周年を期に新しい一步を踏み出せるかどうか問われているような気が致します。

30周年記念祝賀会を開催するにあたり記念誌発行を企画実行にご協力をされた役員の皆様に心より感謝いたします。

また、記念誌作成のために物心両面で多大なご迷惑とご無理をさせたにもかかわらず気持ちよくご協力をいただいた「湘南グッド」小野様にこの紙面をかりて御礼申し上げます。

2004年8月





神奈川県社会人ダンス連盟